

「裏磐梯紀行(14)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

桧原湖畔探勝路を歩き終えたあとは、レンゲ沼や中瀬沼の探勝路も歩いてみた。いずれも30分程度で歩け、ほとんど高低差もないので、非常に楽だった。



中瀬沼からレンゲ沼へ向かう道には、湿地帯が広がっている。湿地といっても、尾瀬のように開けた草原ではなく、森の地面が湿地になっているような場所だ。この区間にはかなり立派な木道が敷かれ、まったく苦労することなく歩くことができた。



湿地である証拠に、ミズバショウがいくつもあった。残念ながら花は終わっていた。ミズバショウの花はあの清楚な姿から、良い香りがしそうな気がする。しかしサトイモ科の花(たとえばコンニャクの花)は良い匂いがしないものが多く、ミズバショウも例外ではない。英語では“**Asian skunk-cabbage**”(アジアのスカンクキャベツ)と呼ばれていることからわかる。虫に頼らず、自家受粉と風媒送粉で結実するらしい。



木道にオレンジ色のチョウが休んでいた。ヒョウモンチョウの一種に間違いない。ウラギンヒョウモンのようにも見えたが、ちがった。



これはツマグロヒョウモンのメスだった。都会地でも普通に見られるチョウなので、少しがっかりした。前夜は一晚中雨だったので、木道の隙間のコケに水がしみ込んでいて、それを吸っているのだ。



チョウやガの翅は、開いた状態(展翅した状態)が「表」である。ツマグロヒョウモンは、オスとメスで翅の表の特徴が全くちがう。オスは名の通り全面豹紋だが、メスはずっと派手で、特徴的な白い模様がある。「棲黒」の名の通り、後翅の下部に黒い縁がある。